

Mutsumi

睦眉会会報

発行者

徳島大学睦眉会

徳島大学医学部保健学科同窓会

徳島県徳島市蔵本町3-18-15 〒770-8509

徳島大学医学部保健学科内

TEL/FAX:088-633-9067

E-mail: mutsumi.jim@gmail.com

発行責任者 久米博子



保健学科長あいさつ

睦眉会の会員の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。日頃は本学の教育や研究について多大なご理解とご支援を賜り、本当にありがとうございます。また、保健学科における国際交流事業にもご理解いただき、心温まるご寄附をいただいておりますこと厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症蔓延のために、この2年間、卒業式や入学式は中止になったり、代表者のみのライブ配信でしたが、令和3年度の卒業式や修了式、令和4年度の入学式はライブ配信とともに、感染に十分配慮しながらアスティとくしまで行われました。久しぶりに学生の皆さんの集まりを見ることができました。その後、オミクロン株が蔓延し、全国に広がりましたが、その後減少傾向にあり、オミクロン株のワクチンも始まり、落ち着きを取り戻してきたようにみえます。しかし、11月になって少しずつ増えており、気になるところです。学生や教員は大学病院との往来もあり、密をさける意味でも対面講義と遠隔講義がハイブリッドで行われています。今、このような遠隔講義やWeb会議には学生も教員も順応しています。ただし、医療系の学科にとって演習や実習は欠かすことができず、感染に十分配慮しながら、対面のできるように工夫しています。現時点では感染者が完全に

徳島大学医学部保健学科長
徳島大学大学院保健科学研究科長

安井 敏之



ゼロになるのは難しく、Withコロナ時代を見据えた教育方法が必要とされています。もちろん、一日も早く新型コロナウイルス感染症が終息してほしいと願っています。

2022年8月には大学院保健科学研究科の入学試験が行われました。たくさんの受験生に受験していただきました。2023年4月からは入学された皆さんとともに活発な研究活動を行っていきたくと思っています。そして大学院生による研究の発展を期待しています。また、看護リカレント教育センターが設置され、2年が経ちました。全国から在宅ケア認定看護師をめざす研修生が来ており、オンラインと対面授業のハイブリッドで行っています。興味がある方は看護リカレント教育センターのホームページを開設していますので、ぜひご覧ください。

2022年2月にはコロナ禍でしたが予定通り国家試験が行われ、卒業生は全国で活躍しています。博士前期課程及び後期課程を修了した大学院生も医療や教育・研究分野で活躍しています。徳島大学医学部保健学科及び大学院がますます発展していきますよう、同窓会の皆様にはさらなる関心を寄せていただき、ご支援・ご高配をいただけますようお願いいたします。



睦眉会会長就任ご挨拶

睦眉会の皆様には、睦眉会活動にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

令和4年度7月の総会で承認され、橋本前会長の後任として新会長に就任いたしました徳島大学医学部附属看護学校28期生（昭和54年卒業）の久米博子と申します。私は、現在、徳島大学病院で病院長特別補佐として患者支援センター副センター長を務めております。患者支援センターでは、地域連携業務、各種相談業務、入院診療から退院に至る患者支援等について一元化しワンストップサービスを提供しております。同センターでは、患者さんの治療時期を縦軸に、患者さんに関わる様々な問題を横軸に捉え、各部門、スタッフ間の連携はもとより家族や地域のつながりをより緊密にすることで、よりよい医療を提供できるように努めております。

さて、睦眉会は、卒後、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師、助産師、保健師等の免許を取得し活躍する正会員、学生は準会員、教職員等の特別会員で構成されており、令和4年10月現在の正会員数は、7,599名となっております。ポストコロナ社会は、三密を避ける、手洗い、うがい、マスクの着用、

徳島大学睦眉会会長
徳島大学医学部附属看護学校28期生

久米 博子



黙食というようなガイドライン的対応だけでなく、人と人、人と空間、人と働き方など、様々な場面で暮らし方の質が大きく変容しました。同窓会の活動は、会議や総会もWeb（Zoom）形式で実施されました。総会には、県外の会員の皆様にもご参加いただけたことは、良かった点だと思います。

また、同時に開催した第13回睦眉会主催講演会は、徳島大学大学院医歯薬学研究部運動機能外科学 西良浩一教授を講師に迎え「腰痛治療の最前線～華麗に加齢～」というテーマでご講演いただきました。講演は大変好評で70名の会員の方にご参加いただきました。

そして今年度より、災害等学生支援基金の積立を行うことが決定し、該当があれば支援する予定となりました。

結びとして、皆様のご健康とますますのご活躍をお祈りいたしますと同時に、同窓会の運営につきまして、更なる睦眉会の発展のために、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

同窓生通信

子どもたちの笑顔が いつまでも輝くように

徳島大学医学部保健学科看護学専攻14期生
徳島大学大学院保健科学教育部博士前期課程看護学領域（令和4年修了）
東大阪市立楠根東小学校 養護教諭

三井 瑞穂



私は現在、東大阪市の養護教諭として勤務しています。入学前から養護教諭になると心に決めて、徳島大学で多くのことを学び、念願だった小学校での勤務が始まりました。しかしながら、私が入職した令和2年の4月は新型コロナウイルス感染症による異例の休

校真っ只中でした。学校現場での経験が全くないまま、未知のウイルスとの戦い。ましてや学校で医療に関わる職種は養護教諭ただ1人。慣れない環境の中で、学校ではPCR検査の実施や濃厚接触者の特定と、養護教諭としての保健業務だけではなく、保健所や病院の役割までも求められていました。久しぶりに登校した子どもたちは、戸惑いを抱え、我慢を強いられ、元気いっぱいとは到底いい

難しく、子どもらしさを失っていました。保健室にも不定愁訴を訴え来室する子どもたちが多く、養護教諭として今の子どもたちに何ができるのか、葛藤の毎日でした。そんな中、保健室に来室した子どもの話をじっくり聞きながら、ふと大学時代に病院実習で患者さんとお話をしたことを思い出しました。その患者さんは、終末期の患者さんで、治療を続けるのか緩和ケアに移行するのが悩まされていました。患者さんの心に寄り添うためには、その人の背景を知り、患者さんの思いを受け入れることだと実習を通して学びました。そして、患者さんの気持ちを全て理解することはできないけれど、自分自身がどれだけその患者さんのことを理解しようとしているのが大切であると実感しました。この病院実習での経験を糧に、日々子どもたちの気持ちを正面から受け止める覚悟で向き合っています。

子どもたちを取り巻く学校現場は様々な問題に直面しています。一人一人違う思いを抱え、悩み、保健室に来室します。今日も私は子どもたち一人一人に寄り添い、子どもたちの心の居場所になれるよう大学で学んだ多くのことを胸に、精進して参ります。

その先に子どもたちの笑顔が輝くことを信じて。

生き方いろいろ

徳島大学医学部保健学科放射線技術科学専攻1期生
山口大学大学院医学系研究科放射線腫瘍学 講師
広島大学大学院医系科学研究科 客員准教授

椎木 健裕



徳島大学を卒業して、16年が経ちました。執筆しながら、40歳を前にして、楽しかった大学時代を懐かしんでおります。私は、卒後、九州大学大学院(修士(医学))、京都大学大学院で学位(博士(工学))を取得し、その後、同大学医学研究科の特任助教を経

て、現在、山口大学大学院医学系研究科 講師、広島大学大学院医系科学研究科 客員准教授を兼任しております。主に、医学部・工学部の学部生や大学院生・留学生の教育・研究指導を行うとともに、様々な診療科や企業と医工連携の研究開発に従事しております。ありがたいことに、充実した日々を過ごしています。

同級生の多数が放射線技師として勤務する中、私は(保健学科でない)大学院で長い研究生を送りました。

「医療の最先端技術おもしろい」の興味で進学を決めました。純粋な学生として過ごす大学院は、(経済的にも)苦しかったですが、充実した時間でした。研究だけでなく、国内外の様々な分野の研究者と出会い、多くの学問や文化に触れ、物事を広い視点から考察することを学び、人間としての成長も感じました。また、そこで出会う人との繋がりの大切さも感じました。

現在の私は、「おもしろいと思ったこと」を追求したからあると思っています。私のところの学生には、医師免許をもって、パイロット訓練生になった学生もいますし、放射線技師免許をもって、医師になった学生、研究者を目指している学生もいます。色んな活躍の仕方・様々な生き方があるということです。若い人たちには医療資格にとらわれず、自分が熱中できる何か(音楽、スポーツ、何でもいいです)を見つけ、活躍の場を広げてもらいたいです。

最後に、現在の私があるのは、徳島大学を通じて出会ったいつも背中を押してくれる先輩や同期、太鼓持ちしてくれる後輩たちのおかげで、人との繋がりに感謝しております。この記事を見て懐かしく思ったら、連絡をもらえたら嬉しいです。久々にあの頃に戻りましょう。

再出発！

徳島大学医療技術短期大学部衛生技術学科 5 期生
徳島大学病院 医療技術部臨床検査技術部門

藤田 望



私は2022年4月より徳島大学病院に入職し、免疫血清検査部門の主任として、年末の機器更新に向け、装置検討や運用の見直しを行っております。技師会活動としては、臨床化学部門を中心とした研究班活動や精度管理専門委員会委員長、徳島県臨床検査技師会理事などを経験後、現在は日本臨床衛生検査技師会理事を拝命しております。

このような経歴を書くと「違う世界の人」と思われる方もいらっしゃると思いますが、卒業してすぐの頃は勉強の重要性がわからず、民間病院に就職。氷河期世代のため、後輩はおらず、いつまでも先輩に頼り、新入気が抜けない日々を過ごしていました。転職を迎えたのは、出産育児のため安定した職場と思い、転職した頃でした。氷河期世代の中堅は系列病院でも少数であったた

め、早期退職制度の利用者が増える中、育休明けのたびに転勤し、不慣れな場所で仕事を覚えつつ、後輩も育成し、臨床への対応もしなければならなくなりました。卒業後10年経ってやっと自分の勉強不足を痛感しました。しかし、気づいたときには子育てしながら勉強できる環境はなく、二級試験や各種認定試験を受験するにあたり、技師会活動を通じて知り合った諸先輩方に指導していただきながら各種専門学会に入り、教科書やガイドラインを集め、勉強をしてきました。

このように紆余曲折を経て、たくさんの失敗をしたからこそ、現職の大学病院検査部の勉強・研究・相談できる環境はとても素晴らしく、自分も実習でお世話になった施設で学生の指導を行うということに大変感慨深く感じております。新たな職場でも日々知識不足を痛感しておりますが、温かく受け入れ指導してくださる上司や同僚に恵まれたことに感謝しております。若い方が多い職場でもあるので、ライフステージが変化しても仕事と家庭の両立ができるように、「お互い様」の気持ちを忘れず、寄り添い見守りながらともに成長できる環境を作っていきたいと考えております。



助産師として共に学ぶ

徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻 5 期生
徳島文理大学助産学専攻科

森本 ゆかり



私は平成8年に徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を卒業後、JA徳島厚生連の病院に助産師として25年間勤務しました。私生活では、妊娠出産し3児を儲けることができました。妊娠中はつわりがひどく切迫症状で入院もありました。

育休明けの仕事と子育ての両立があんなに大変だとは思っていませんでした。振り返ると、この経験が私の助産師としての姿勢の根幹にあり、母親になる女性と接する際の言葉遣いや態度に生かされていると思います。

25年間の勤務助産師の日々は、助産師仲間と切磋琢磨しながら、「助産師外来」「院内助産」の立ち上げに関わり、助産実践能力が一定の水準に達していると評価されるアドバンス助産師も取得しました。忙しくもあり楽しい日々でしたが、身体の不調をきっかけに、縁あって令和3年に徳島文理大学助産学専攻科に入職し、今は教員として勤務しています。

徳島文理大学助産学専攻科は、看護師免許を有した学生が助産師になるために高度な知識や技術を学びます。前期と後期の授業に加え、5か月間は分娩介助10例を目指して実習に励みます。そのため1年間はあるという間に過ぎていきます。座学で学んだ知識が、演習や実習の場面につながるように、学生のレディネスを考慮しながら指導していく必要があります。教員として未熟な私は、専攻科長、尊敬している教授、優しい助教の先生に助けて頂きながら、学生と共に泣いたり笑ったり落ち込んだりしながら日々学んでいます。

新型コロナウイルス感染症が流行し、社会や医療の現場は大きく変化しました。このような背景があり入学してくる学生は、経験不足という見方ではなく、どんな状況にも対応できる力があると信じています。固定観念にとらわれて、変化に最もついていけないのは経験者のほうなのではないか、と感じています。相手を変えるにはまず自分からというように、学生の力を信じて、共に学び、共に成長していきたいと思います。



活躍する卒業生



徳島大学ホームページ、徳島大学びざん会の「ニュースレター」のコーナーに掲載されています。



徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻 平成6年卒業
香川大学医学部附属病院 看護部長

阿部 慈 (あべ めぐみ)

略歴

平成6年3月 徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻 卒業
平成6年4月 香川医科大学(現香川大学医学部)附属病院 就職
平成28年3月 香川大学大学院医学系研究科看護学専攻
修士課程 修了 修士(看護学)
令和4年3月 徳島大学大学院保健科学教育部
博士後期課程 修了 博士(保健学)
令和4年4月 香川大学医学部附属病院 看護部長

平成6年3月に徳島大学医療技術短期大学部専攻科助産学特別専攻を卒業後、香川医科大学(現香川大学医学部)附属病院に助産師として就職されました。15年間の助産師臨床経験の中で、母子とその家族の幸せを願い多くの命をこの世に送り出し、平成27年にはCLoCMiP(助産実践能力習熟段階)レベルⅢ認証制度におけるアドバンス助産師の認証を受けられています。平成21年より看護部長として病棟の管理運営を行い、平成29年からは副看護部長として、大学病院全体の看護管理を他部門と調整を図りながらケアの充実に取り組んで来られました。またこの間、香川大学大学院医学系研究科看護学専攻修士課程を修了され、さらに徳島大学大学院保健科学教育部博士後期課程にて学ばれ、令和4年3月に博士(保健学)の学位を取得されました。香川県看護協会の助産師職能理事として、助産師の育成を積極的に支援し、令和4年4月からは看護部長として、未来に夢を描くことのできる看護職の育成に取り組んでおられます。看護職のリーダーに相応しい経験と実績を基盤に、今後さらなる活躍が期待されます。



徳島大学医学部附属看護学校 昭和58年卒業
徳島文理大学保健福祉学部看護学科 教授
元徳島大学病院 副病院長・看護部長

高開 登茂子 (たかがい ともこ)

略歴

昭和58年4月 徳島大学医学部附属病院 入職
平成20年4月 徳島大学医学部・歯学部附属病院
感染対策部門副部門長・看護師長
平成24年4月 国立大学法人徳島大学病院 副看護部長
平成28年4月 国立大学法人徳島大学病院 副病院長・看護部長
令和4年4月 徳島文理大学保健福祉学部 看護学科 教授(現在に至る)

受賞歴

令和2年10月 公益社団法人徳島県看護協会設立40周年記念知事表彰
令和4年4月 叙勲 瑞宝双光章受章

昭和58年に徳島大学医学部附属看護学校をご卒業後、徳島大学医学部附属病院の救急部・ICUの創設年に当該部署に入職されました。その後17年間外科や手術室等で勤められた後、平成12年に一度退職されましたが、平成18年の再就職後は看護師、副看護師長を経て、平成20年より感染対策部門副部門長・看護師長、平成24年、副看護部長、平成28年より副病院長・看護部長と歴任されました。「患者さんの満足度向上のためには、まずは個々の看護職員が将来への夢を持ち、生き生きと働き続けられる職場を！」という熱い思いで、勤務環境の改善、高度人材育成やキャリア形成支援システムの確立等に貢献されました。また、副病院長として病院運営に参画し、チーム医療の推進や、地域のニーズに沿った新たなしくみ作りに尽力されました。「COVID-19感染症対応の際には、看護部職員一人一人が、高い実践能力を発揮し協力体制を敷くことができた。看護力・組織力の強さを感じ、そのことが一番誇らしいこと」と語っておられました。現在は徳島文理大学で看護学生の教育に当たられています。

研究紹介

慢性腎臓病の診断・治療の研究とエクソソーム精製技術の研究

徳島大学大学院医歯薬学研究部
医用検査学系 生体機能解析学分野 准教授

富永 辰也

日本での慢性腎臓病(CKD)患者数は、約1,330万人、予備軍を含めると7,000万人に上ります。健康であっても30-40歳以降は、加齢と共にネフロン数が減少しCKD発症リスクを高めます。透析導入患者数も年々増加しており、2025年には約40万人に達すると予測されています。CKD患者増加の背景には、腎機能回復のための「治す」治療薬が存在しないだけでなく、正確なりキッドバイオプシーがないことにも問題があります。私達の研究室では、透析のない世界を目指しCKD早期診断法の開発と治療薬の探索を行っています。

糖尿病性腎症の研究を行ってきたなかで、腎糸球体硬化症をBMP4/Smad1が誘導しており、糸球体基底膜の肥厚にIgG4が関与していることを証明しました。尿中Smad1と尿中IgG4の測定は、アルブミン尿よりも優れた診断マーカーとして、ヒトの腎機能低下を予測し早期治療介入するための診断指標として意義を示しました。また、腎機能低下を抑える薬の探索も行っています。私達独自の3D細胞培養でミニ腎臓を作製し、治療薬の探索研究を行っています。ミニ腎臓の特徴は、2D培養に比べ生体に近い分子機能を示すことから、薬剤の効能効果を高い精度で評価できます。早期診断可能なバイオマーカーにて腎機能を把握し、腎機能を回復できる段階で治療介入できる医療を目指して研究を進めています。

もう1つの大きな研究テーマは、エクソソーム精製技術の開発です。エクソソームに関連する研究は、診断方法の開発、創薬、再生医療、食品と幅広い分野で急速に拡大しています。これまでに多くのエクソソーム単離方法が確立されていますが、抽出量が少ない、精製度が低い、再現性が悪い、コストが高いなど産業化にむけて多くの課題がありました。私達独自の高吸水性樹脂(SAP)を用いたエクソソーム精製法により、簡便かつ短時間で抽出し、競合他社キットに比べ5倍以上の回収効率、良好な再現性を得ています。手軽に大量精製できる技術を確認して、臨床検査や治療法として身近にエクソソームを利用できる世界になるように研究を行っています。

私達の研究にご興味があり共同研究などご提案ありましたら、是非ともご連絡いただけましたら幸いです。



日本生化学会大会にて学生と(筆者 左)

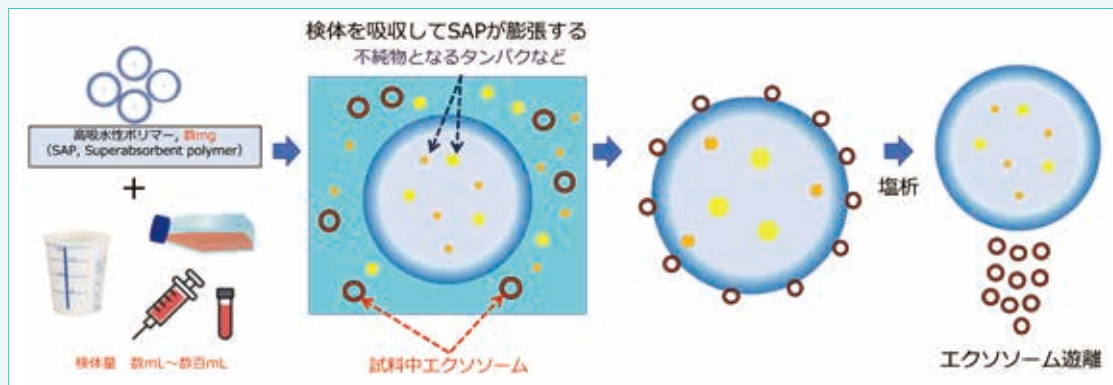


図. SAP法によるエクソソーム精製技術

保健学科における国際交流活動報告

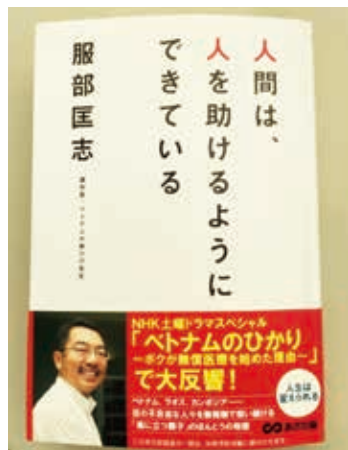
2022年度国際保健講演会 「ベトナムのヒカリ 眼科医 服部匡志先生」を終えて

徳島大学大学院医歯薬学研究所 学校保健学分野 准教授 田中 祐子

睦眉会のご賛同とご支援を賜り、本年度、国際交流委員会で、ベトナムで無償の眼科医療をおこなっている服部匡志先生をZoomでお迎えし「ベトナムのヒカリ」の講演会を開催しました。11月16日（水）藤井節郎記念ホールには45名、自宅から45名の参加者で、計学生85名、教員5名の参加がありました。はじめに服部先生の著書「人間は人を助けるようにできている」を紹介し、次に、2006年テレビ番組で先生の活動が取り上げられた「情熱大陸」を視聴しました。この映像から、服部先生が赴任されたベトナムの情景、過疎地での医療状況や大勢の医療を必要とする患者さんの様子が、次々と目前に繰り広げられました。さてそれから、Zoom講演とディスカッションでしたが、突然先生のパソコンの故障で、急遽音声のみの講演となりました。2002年から20年間、海外で無償医療活動を継続してこられた、先生の困難と思える道のりは、

ここに参加された方の感想の一部を紹介させていただきます。

- ・偉大な先生の貴重な話を聞くことができ、良い経験になったと思う。
- ・現場で働いている方の生の声が聞いて参考になった。情熱大陸の映像でどんな活動をされているのかよくわかった。普段ではありえない貴重なお話を聞くことができ、よかった。
- ・結果的に成功している人でも様々な苦悩があることがわかった。そのような講演を聞いて、私も挑戦することを諦めないで、いこうと勇気を貰うことができた。
- ・今回、このような貴重なお話をしてくださってありがとうございました。私は、個人の財産を使ってまでベトナムの人の命を救おうとご尽力された先生の姿に感動しました。



私達を勇気づけるものでした。講演中、マイクの不具合で音声が十分に届かず、参加者の方にお聞き苦しい面が多々ありました。

先生は11月30日マグサイサイ賞を受けにマニラ（フィリピン）に向かわれました。



2022年度 国際保健講演会

ベトナムのヒカリ

— 服部匡志医師のベトナムでの挑戦 —

日本の眼科医、父親を喪ってからは、医者としての志を断念し、父親の入院中に医師の心ない言葉を浴び、患者の心の痛みを医師にならねばならぬと決意した。2002年ベトナムに日本を代表し、ハイロン眼科病院を中心とする地方において2万人以上の患者さんを無償で治療。ベトナムの若い先生と出会う。また患者は均等に治療の機会を得るために慈善活動の取り組みも行う。現在は、ベトナムやアジアでの医療の発展のため、日本において眼科医療人の育成に力を注いでいる。

今年8月、アジアのノーベル賞と呼ばれるマグサイサイ賞を受賞。



服部 匡志 医師
(ご略歴)
1964年 大医学士
1993年 京都府立医科大学卒業
2002年 ベトナムでの医療活動開始
現在までに数々の賞を受賞

11月16日（水）

16:45～18:45 オンライン開催

藤井節郎記念ホールにて、大型スクリーンを使用した会場もあふれる会場を準備しています。ぜひ、ご来場ください。

参加対象：医学部保健学科 1年生・4年生
参加費：無料
申し込み：URL又はQRコードよりお申し込みください
申し込みURL: <https://forms.office.com/f/mhx6Ex22He>
申込締切：11月8日（火）17時まで
QRコード

お問い合わせ
徳島大学保健学科
田中 祐子
〒770-8502 徳島市南本町2丁目1-15
TEL: 089-433-9115
Email: yuko.tanaka@fukushima-u.ac.jp

第13回睦眉会主催講演会報告

徳島大学睦眉会理事
徳島大学医療技術短期大学部看護学科 12 期生
徳島大学大学院医歯薬学研究部メンタルヘルス支援学分野

千葉 進一

第13回睦眉会主催講演会が令和4年7月9日に開催されました。コロナ禍のため、今回の講演会は初めてオンラインでWeb開催されました。Web開催では、遠方の方も参加しやすいため、70名の方にご参加頂くことができました。講演会には、腰痛治療の専門医としてNHK「プロフェッショナルの仕事の流儀」にご出演された、本学運動機能外科学分野教授の西良浩一先生をお招きして、「腰痛治療の最前線～華麗に加齢～」と題してご講演頂きました。腰椎椎間板ヘルニアや除圧術が適応とされる腰椎変性疾患に対する全内視鏡下手術であるFull-Endoscopic Discectomy、徳島大学で開発した手術法であるFull-endoscopic ventral facetectomy等の説明を通し、全身状態が悪い高齢者でも手術が受けられる低侵襲手術法が開発され施行されていることが分かりました。また、骨粗鬆性圧迫骨折では固定手術の他、治療薬である甲状腺ホルモンのテリパラチドやビスフォスフォネート製剤が有効であることを知りました。さらに、腰痛には手術



や治療薬の他にストレッチが有効であることが分かりました。「おしりキック」や「猫のポーズ」、「スフィンクスのポーズ」など腰痛に有効なストレッチを教えて頂きました。会員の皆様も、インターネットでこれらのストレッチを是非検索して頂いて、まずは自分でできる腰痛対策に取り組んでみられてはいかがでしょうか。

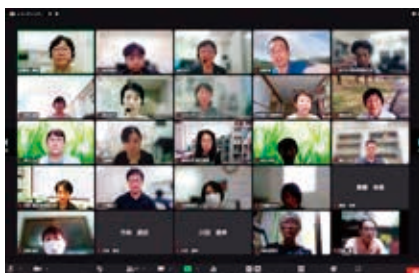
令和4年度睦眉会総会オンライン開催報告

徳島大学睦眉会理事
徳島大学医療技術短期大学部診療放射線技術学科 12 期生
徳島大学大学院医歯薬学研究部放射線治療学分野

佐々木 幹治

令和4年度徳島大学睦眉会総会は、第13回睦眉会主催講演会（WEB開催）に引き続き、令和4年7月9日15時10分から15時40分で遠隔会議システムZoomにより開催を実施し、県外からの参加者も含め41名の睦眉会会員にご参加いただきました。

オンライン開催を運営するにあたり、睦眉会の理事6名によりオンライン開催ワーキンググループを発足しました。ワーキングは、遠隔会議2回、当日のリハーサルを兼ねて対面による集合形式1回の合計3回実施しました。事前の準備は、会員への案内ハガキ内容、参加申し込み用のGoogleフォームのURLおよびQRコード作成、



総会の決議方法「Zoomの機能の一つである投票機能で決議」、ワーキングメンバーによるZoomの共同ホストと

一般参加者の役割分担、幕間スライド（本日のスケジュール、注意事項）およびBGM係、一般参加者の注意事項と接続テストと多岐にわたりました。

オンライン総会自体は、事務局の梅野氏からの開会の辞からはじまり、前会長である橋本氏の挨拶、第1号議案 令和3年度事業報告・役員会報告から第6号議案 令和4・5年度役員改選案までの報告、監査、そして会員による決議を実施しました。その後、久米新会長から挨拶があり、前会長の橋本氏から退任の挨拶の後、閉会の辞で終了しました。今回、初めてオンライン開催による総会および講演会を実施いたしましたが、大きなトラブルもなく、順調に終了することができました。

今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況次第とはなりますが、ハイブリッド開催、対面方式での開催なども視野に入れつつ方法論を模索していきたいと考えております。

今後とも睦眉会に対して、皆様のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

退職された先生からのメッセージ

看護の力を信じて

睦眉会会員の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のことと存じます。COVID-19の流行により、多くの価値観や生活様式が急激に変化しました。この最中、令和4年3月に定年退職をいたしました。定年まで、働けたことは喜ばしいことであると皆様にお祝いして頂き、ありがとうございます。徳島大学では、平成18年4月より保健学科看護学専攻の教授として16年間、縁あって教育・研究に携わることができました。その間は、大学に入学からの問いである看護とは何か、を問い続ける日々でもありました。今もなお自宅で、母の看護を通して、思考し、改めて看護の広さと奥深さを痛感しています。

退職前より、母を自宅で介護をし、看取りまでを行うという希望を持っておりました。退職後その希望がかない5月26日より自宅で寝たきりとなった母の看護を行い、6か月が経過しようとしています。当初は介護と思っていました。しかし、私はやはり看護をしているのだと感じています。母は、17年前にアルツハイマー型認知症と診断され、グループホームや特別養護老人ホームで過ごし、昨年胃がんが発見され、胃の全摘出と膵臓摘出を

元徳島大学大学院医歯薬学研究部看護学系 教授
徳島大学名誉教授

岸田 佐智



行いました。自宅に帰った時には、経腸チューブに繋がれ、経口摂取ができず、座位も立位もできず、発語もなく寝たきり状態でした。介護士や理学療法士、言語療法士、医師や看護師の多くの方々からのご支援を頂きながら、今は経腸チューブは抜け、三食経口摂取し、本日は介助しながらですが端坐位で昼食をとることができました。話している意味は不明ですが、なにやら一生懸命話しています。

在宅看護を実践し、新生児ケアと認知症高齢者ケアの類似点を発見し、スタッフの方々を持ち技に感心させられながら、看護とは何かの問いの追求は続いています。退職後も自分の専門性を活かし、それを実行できることに幸せを感じています。

睦眉会の皆様におかれましても、ますますのご発展をお祈りいたしております。

寄稿

竹内美恵子先生への 尊敬と感謝を込めて

徳島大学大学院医歯薬学研究部 助産学分野 教授

葉久 真理

竹内美恵子先生は、2022(令和4)年7月20日にご自宅でお亡くなりになられました。81歳でした。

先生は、1968(昭和43)年4月より2006(平成18)年3月に65歳で定年退職されるまでの38年間、助産師教育に邁進し、総勢764名の助産師を世に送り出されました。徳島大学での在職期間は、大学病院での臨床経験を含めて43年間、歩く徳島大学50年史と失礼ながら揶揄したものでした。徳島大学における助産師教育を、附属学校から短期大学の専攻科に、さらに医学部保健学科での選択制の教育から大学卒業後1年間の助産学専攻科へと発展的改組に取り組みされました。社会活動では、一般社団法人日本助産学会、公益社団法人全国助産師教育協議会、公益社団法人日本助産師会並びに一般社団法人徳島県助産師会、公益社団法人日本看護協会など助産／看護の各団体においても昼夜を問わず活動され、助産師教育の礎を築いたと言っても過言ではありません。特に、1985年、助産実践の基盤である助産学の発展を目指した日本助産学会設立発起人会の副委員長として、また設立準備委員として準備を重ね、日本助産学会の設立に貢献し、設立後は、理事として国際助産師連盟への加盟や日本学術会議の研究団体登録、学術振興委員長として学会員の研究への意識を高め研究力向

上を支援するワークショップを日本各地で開催すると共に助産学研究助成事業を開始し、定年後も継続して助産学の発展に貢献したことから、2017年日本助産学会功労賞を授与されました。徳島県知事表彰(看護功労)や医療功労賞など数々の表彰を受けられ、2022年8月には叙勲：瑞宝小綬章 叙位：従四位が授与されました。

2006年11月発行の第6号睦眉会会報には、先生の退職後の近況が報告されています。お母様とのゆったりとした時間を過ごしながらも、大学病院看護教育センターでアドバイザーとして活動されていることが書かれています。退職後もそのパワーが落ちることなく活動されていましたが、ここ数年、体力の低下も見られるようになり、このコロナ禍でお会いする機会が激減する中、突然の訃報の連絡は未だ信じられませんが、いつも人に感謝し、温かい手を差し伸べられていた先生は、睦眉会会員のみなさまをはじめ関係の方々にお礼を申しておくようにとされていることでしょうか。昭和・平成・令和と竹内先生として駆け抜け、人に・助産師教育に尽くされた人生でした。これからも私達を見守ってくださっていると信じています。竹内先生、ありがとうございました。

令和4年度 徳島大学睦眉会総会報告

令和4年7月9日 (土)
(Web開催: Zoom)



- 日 程: 1. 第13回睦眉会主催講演会 14:00 ~ 15:00
 演題 「腰痛治療の最前線～華麗に加齢～」
 講師 西良 浩一先生 (徳島大学大学院医歯薬学研究所運動機能外科学分野教授)
 2. 令和4年度睦眉会総会 15:10 ~ 15:40
- 参加者: 1. 第13回睦眉会主催講演会 70名
 2. 令和4年度睦眉会総会 41名

総会次第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 議案審議
 - (第1号議案) 令和3年度事業報告・役員会報告
 - (第2号議案) 令和3年度会計報告・会計監査報告
 - (第3号議案) 令和4年度事業計画案
 - (第4号議案) 令和4年度予算案
 - (第5号議案) 睦眉会会則一部改正案
 - (第6号議案) 令和4・5年度役員改選案
4. 閉会の辞

令和3年度 事業報告

1. 入学記念品の贈呈 令和3年4月
2. 入学式出席 (会長) 令和3年4月6日
⇒代表者・関係者のみの開催のため、会長参加中止
3. 新入生歓迎昼食会の開催 令和3年4月6日 ⇒中止
4. 徳島大学同窓会連合会 ニュースレター (活躍する卒業生) 掲載 令和3年6月、11月
5. 令和3年度睦眉会総会の開催 (みなし総会: 役員によるメール会議・Web会議)
. 令和3年7月30日 (参加者: 役員28名)
6. 保健学科/大学院保健科学教育部 国際交流基金への寄付金贈呈 令和3年9月
7. 徳島大学同窓会連合会交流会「オンラインびざん会」への出席 (会長他)
. 令和3年5月29日～令和4年3月26日 (計8回)
8. 徳島大学同窓会連合会交流会「近畿びざん会」への出席 (会長他) 令和3年12月12日
⇒オンラインに変更
9. 徳島大学同窓会連合会交流会「びざん会」への出席 (会長他) 令和4年1月20日
⇒オンラインに変更
10. 睦眉会会報 (第21号) の発行 令和4年2月21日
11. 卒業式・医学部各賞授与式出席 (会長他) 令和4年3月23日
⇒事前申込みの卒業生・関係者のみの開催のため、会長参加中止
12. 卒業・修了記念品の贈呈 令和4年3月23日

(第1号議案) 役員会報告

1. 役員会開催状況 (令和3年4月1日～令和4年3月31日)

年度	回数	開催日	場所	参加人数	
R.3	1回	令和3年7月1日(木)	Web会議	12名	
	〃	令和3年7月12日(月)	追加メール会議	11名	
	2回	総会開催(役員会)		メール会議	28名
		令和3年7月30日(金)			
		令和3年8月19日(木)			
		令和3年10月25日(月)			
3回	令和3年10月25日(月)	Web会議	24名		
4回	令和4年2月8日(火)	Web会議	23名		
5回	令和4年3月16日(水)	Web会議	27名		

2. 各種委員会開催状況

委員会名	開催日	場所	参加人数	
会報委員会	1回	令和3年9月7日(火)	Web会議	12名
	2回	令和3年12月2日(木)	Web会議	12名
	3回	令和3年12月27日(月)	Web会議	8名
	4回	令和4年1月18日(火)	Web会議	7名
総務・渉外委員会	1回	令和3年11月25日(木)	Web会議	8名
	2回	令和4年2月8日(火)	Web会議	8名
ホームページ委員会	随時		4名	

3. 役員会・委員会における主な協議事項

- 1) 睦眉会総会・講演会について
- 2) 睦眉会役員改選について
- 3) 睦眉会会則の改正について
- 4) 睦眉会会報の発行について
- 5) 睦眉会の役員の委員会活動について
- 6) 徳島大学同窓会連合会への協力について
- 7) 保健学科・保健科学教育部国際交流基金への寄付金贈呈について
- 8) 災害等学生支援基金について
- 9) 入学記念品贈呈について
- 10) 卒業・修了記念品贈呈について

* (第1号議案) 令和3年度事業報告・役員会報告は、すべて承認された。



(第2号議案)

● 令和3年度 睦眉会 会計報告 ●

(令和3年4月1日～令和4年3月31日)

【収入の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
本部会費(133名分)	2,660,000	2,660,000	0
貯金利子	20	25	5
寄付金 ¹⁾	0	40,000	40,000
前年度繰越金	4,059,419	4,059,419	0
収入合計	6,719,439	6,759,444	40,005

【支出の部】

(単位 円)

項目	予算額	決算額	増減額
印刷費・送料(会報代を含む)	1,300,000	1,206,204	△93,796
会議費	250,000	123,070	△126,930
慶弔費(入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む) ²⁾	600,000	1,124,561	524,561
保健学科/保健科学教育部の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
会報委員会活動費用	50,000	12,000	△38,000
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	60,000	26,168	△33,832
支出小計	2,560,000	2,792,003	232,003
予備費	4,159,439	0	△4,159,439
次年度繰越金	0	3,967,441	3,967,441
支出合計	6,719,439	6,759,444	40,005

(備考) 1) 収入の部の決算額の寄付金：20,000円×2名

2) 今回の慶弔費の入学記念品代は、令和3年度・4年度の2年分を含む。

令和4年3月31日 会計 佐々木幹治

● 会計監査報告 ●

令和3年度会計報告書を監査いたしました。

会計処理は適正に、正確に処理されていることを証明いたします。

令和4年6月14日 監事 中道 玲子
森 さゆり

* (第2号議案) 令和3年度会計報告・会計監査報告は、すべて承認された。

(第3号議案)

● 令和4年度 事業計画 ●

1. 保健学科/大学院保健科学研究科 国際交流基金への寄付金贈呈
2. 災害等学生支援基金として積み立て
3. 入学記念品の贈呈 令和4年4月
4. 入学式出席(会長) 令和4年4月6日
⇒事前申込みの入学生・関係者のみの開催のため、会長参加中止
5. 新入生歓迎昼食会の開催 令和4年4月6日 ⇒中止
6. 徳島大学びざん会(同窓会連合会) ニュースレター(活躍する卒業生)掲載
..... 令和4年6月、11月
7. 令和4年度睦眉会総会の開催(Web会議) 令和4年7月9日
8. 第13回睦眉会主催講演会の開催(Web開催) 令和4年7月9日
演題 「腰痛治療の最前線～華麗に加齢～」
講師 西良浩一先生(徳島大学大学院医歯薬学研究部運動機能外科学分野教授)
9. 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「オンラインびざん会」への出席(会長他)
..... 令和4年4月23日～令和5年3月25日(計8回の予定)
10. 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「関東びざん会」への出席(会長他) 令和4年12月頃
11. 徳島大学びざん会(同窓会連合会)交流会「びざん会」への出席(会長他) 令和5年1月頃
12. 睦眉会会報(第22号)の発行 令和5年2月頃
13. 卒業式・医学部各賞授与式出席(会長他) 令和5年3月23日
14. 卒業・修了記念品の贈呈 令和5年3月23日

* (第3号議案) 令和4年度 事業計画案は、提案通り可決された。

(第4号議案)

● 令和4年度 睦眉会予算 ●

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

一 般 会 計

【収入の部】

(単位 円)

項 目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
本部会費(138名分)	2,660,000	2,760,000	100,000
貯金利息	20	20	0
前年度繰越金	4,059,419	3,967,441	△ 91,978
収入合計	6,719,439	6,727,461	8,022

【支出の部】

(単位 円)

項 目	前年度予算額	今年度予算額	増減額
総会・講演会費用	0	70,000	70,000
印刷費・送料(会報代を含む)	1,300,000	1,500,000	200,000
会議費	250,000	200,000	△ 50,000
慶弔費(入学・卒業記念品、退職教員記念品代を含む)	600,000	800,000	200,000
保健学科/保健科学研究科の国際交流基金への寄付金	100,000	100,000	0
災害等学生支援基金への積立金 ¹⁾	0	100,000	100,000
会報委員会活動費用	50,000	50,000	0
事務局運営費	200,000	200,000	0
雑費	60,000	60,000	0
支出小計	2,560,000	3,080,000	520,000
予備費	4,159,439	3,647,461	△ 511,978
支出合計	6,719,439	6,727,461	8,022

特別会計

【収入の部】		(単位 円)
項目	予算額	
災害等学生支援基金積立金 ¹⁾	100,000	
前年度繰越金	0	
収入合計	100,000	

【支出の部】		(単位 円)
項目	予算額	
災害等学生支援事業	0	
予備費	100,000	
支出合計	100,000	

(備考)

1)災害等学生支援基金は、以下の内規通り運営する。

*災害等学生支援基金に関して、以下の通り内規を定める。

- ・災害等で生活が困難になった学生を支援する目的で、基金として一定額を積み立てることとする。
- ・支援対象は、保健学科並びに保健科学研究科に在籍している学生とする。
- ・支援時期は、災害等で大学が支援に動く時とする。
- ・支援内容は、食料品等の支援物資の配布とする。
- ・支援は、臨時役員会で協議して決定する。

* (第4号議案)令和4年度 睦眉会予算案は、提案通り可決された。

(第5号議案) **睦眉会会則一部改正**

- 徳島大学内組織の名称変更のため、下記の通り朱書き部分のみ会則を一部改正する。

新	旧
<p>第4章 会 員</p> <p>第4条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。</p> <p>3 準会員は、次の各号に掲げる者とする。</p> <p>一 徳島大学医学部保健学科在学生</p> <p>二 徳島大学大学院保健科学研究科在学生</p> <p>附 則</p> <p>この会則は、平成8年1月20日から施行する。</p> <p>この会則は、平成13年10月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成16年1月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成18年4月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成20年7月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成24年4月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成30年7月1日から施行する。</p> <p>この会則は、令和2年7月29日から施行する。</p> <p><u>この会則は、令和4年4月1日から施行する。</u></p>	<p>第4章 会 員</p> <p>第4条 本会は、正会員、準会員及び特別会員をもって組織する。</p> <p>3 準会員は、次の各号に掲げる者とする。</p> <p>一 徳島大学医学部保健学科在学生</p> <p>二 徳島大学大学院保健科学教育部在学生</p> <p>附 則</p> <p>この会則は、平成8年1月20日から施行する。</p> <p>この会則は、平成13年10月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成16年1月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成18年4月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成20年7月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成24年4月1日から施行する。</p> <p>この会則は、平成30年7月1日から施行する。</p> <p>この会則は、令和2年7月29日から施行する。</p>

* (第5号議案)睦眉会会則一部改正案は、提案通り可決された。

令和4・5年度 睦眉会新役員

(2022年7月9日～)

役 職		氏 名	所 属	勤 務 先		
名誉会長		安 井 敏 之	学科長	徳島大学医学部保健学科長 (徳島大学大学院医歯薬学研究部)		
会 長		久 米 博 子	看	徳島大学病院		
副会長		尾 形 美 子	看	徳島大学病院		
		川 田 直 伸	放	徳島大学病院		
		江 原 隆	検	徳島県立中央病院		
		後 藤 さおり	助	徳島大学病院		
理 事	事務局	梅 野 真由美	検			
		富 永 辰 也	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
	会 計	佐々木 幹 治	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
	総 務	千 葉 進 一	看	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
		富 永 正 英	放	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
		安 藝 健 作	検	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
理 事		竹 林 桂 子	助	徳島大学大学院医歯薬学研究部		
		藤 村 ひとみ	看	徳島大学病院		
		三 木 こずえ		徳島大学病院		
		米 田 好 美		四国大学看護学部		
		明 石 晃 代		徳島大学病院		
		堤 理 恵		徳島大学大学院医歯薬学研究部		
		高 橋 久 美		徳島大学大学院医歯薬学研究部		
		栗 本 佐知子		四国大学看護学部		
		天 野 雅 史	放	徳島大学病院		
		山 田 健 二		徳島大学病院		
		佐 藤 隆 文		徳島県立中央病院		
		監 事		佐 藤 雅 美	検	徳島大学病院
				藤 野 恵		徳島大学病院
				立 岩 真 紀	徳島県立中央病院	
原 田 美佐子	助			みさ子助産院		
大 西 真理子				徳島大学病院		
アドバイザー		橋 本 公 子	助	ウェルネス橋本助産所		

* (第6号議案) 令和4・5年度 睦眉会役員改選案は、提案通り可決された。

編集後記

卒業生の皆様お元気にお過ごしでしょうか。このたび第22号会報発行の運びとなりました。今号も多方面でご活躍中の卒業生の方々をご紹介させていただきます。コロナ禍の現在、行動規制はないとはいえ、医療従事者にとりまして、県外移動には気を遣う日々が続いています。県外にお住まいの方々は、徳島を訪れる機会も少なくなっているのではないのでしょうか。年に一度のお便りで

はありますが、この会報を通して、徳島を感じていただき、徳島大学で過ごした学生時代に思いを馳せる機会となりましたら幸いです。令和5年が平和で健やかな年になりますようにと願っております。最後になりましたが、ご執筆いただいた皆様に感謝申し上げます。

睦眉会会報委員 竹林 桂子



徳大ニュース

徳島大学に関するニュースをお届けします。詳細は、本学HPをご覧ください。徳島大学総務部未来創造課同窓生・基金係では、本学の卒業生・修了生、学生、教職員が親睦を深めるための交流会として毎月1回「オンラインびざん会」を開催しております。過去の開催の様子は、同窓生・基金係YouTubeチャンネルよりご覧いただけます。皆様のご参加をお待ちしております。

1 「徳島大学びざん会」に名称変更しました

本学には、現在、各学部等を中心に7つの同窓会があり、それぞれの活動を続けておられます。本学がさらに教育・研究・社会貢献の分野で卓越した成果を上げ、広く社会から評価される大学であるために、教職員、学生はもとより卒業生・修了生の枠組みを越えた交流及び連携が不可欠と考え、平成18年に「徳島大学同窓会連合会」を設立いたしました。

その後、これまで徳島大学同窓会連合会交流会の名称として、各同窓会にとっても慣れ親しまれた「びざん会」を連合会の名称として発展させてはどうかとの提案を受け、令和4年4月に「徳島大学びざん会」に名称変更いたしました。今後も、各同窓会との交流・連携を引き続き進めるとともに、卒業生・修了生との絆を一層深めていくための取組を強化してまいります。

2 「未来創造課」を新設しました

令和4年4月1日より、同窓生をはじめとするステークホルダーへの情報発信強化、同窓生との連携強化などの観点から、総務課広報室及び同窓生・基金室を再編統合し、未来創造課を設置いたしました。

未来創造課では、広報係と同窓生・基金係がそれぞれの役割を果たしながら、同窓生の皆様への情報発信に努め、皆様の母校である徳島大学のさらなる発展に向けて取り組んでまいります。

3 徳島大学基金を活用させていただきました

皆様からご支援いただいた基金を活用させていただき、本学附属図書館東側の「工学部（現理工学部）創立50周年記念公園」の改修整備を行いました。徳島大学創立70周年記念事業基金の補助を受け、皆様に親しまれるスペースが誕生しました。

また、コロナ禍及び昨今物価高騰の影響で、生活に困窮する学生を支援するため、教育・研究・社会貢献事業基金を活用させていただき、本学生協食堂での「食事」等の利用時に使用できるクーポンを学生約350名に配付しました。

改めてご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。

4 「医光/医工融合プログラム」を開設します

本学では、令和5年度より理工学部理工学科（昼間）において30名の定員増を行い、「医光/医工融合プログラム」を設置します。

このプログラムは、光学（工学）と医学を発展的に融合させ、理工学部・医学部・ポストLEDフォトリクス研究所・先端酵素学研究所等による学部等横断型の特別プログラムとなっています。

本学、そして徳島県の強みの1つである「LED」を活かしたイノベティブな「医光/医工融合人材」の育成を行うことで、未来を切り拓き「キラリと光る徳島大学」をめざしてまいります。

■徳島大学基金へのご協力をお願い

「徳島大学基金」は、皆様からご支援いただいた寄附金を基金として事業区分ごとに積み立て、徳島大学の教育研究等の発展のために使用させていただくものです。webサイトからクレジットカードやコンビニを利用したお申し込みも可能です。詳しくは徳島大学基金ホームページ(<https://www.tokushima-u.ac.jp/contribution/support/>)をご覧ください。

- ・基金に関するお問合せ：徳島大学総務部未来創造課 電話：088-656-9979
- ・税制上の優遇措置に関するお問い合わせ：徳島大学財務部資産管理課 電話：088-656-7037

■SNSのご案内

徳島大学公式 Twitter



同窓生・基金係 Facebook



同窓生・基金係 YouTube

